

ものづくりのまち 下松

下松市は、大正時代から工業都市として発展してきた歴史を持ち、現在では周南工業地域の中核として、鉄道車両や船舶などの輸送関係から、鉄鋼、半導体製造に係るハイテク産業まで、幅広い製造業が盛んな「ものづくりのまち」として知られています。ものづくりへの飽くなきチャレンジ精神と独自技術のたゆまぬ研鑽により、国内にとどまらず世界レベルの高い技術力を誇っています。

(株)日立製作所

(株)日立製作所は鉄道車両、駆動用制御装置をはじめ、列車運行管理システムや電力管理システム、情報サービスなどのフルラインナップのサービスを提供できる総合鉄道システムインテグレーターとして、重要なインフラである「鉄道」を支えています。

笠戸事業所では、新幹線などの各種電車、都市交通機関であるモノレールなどの鉄道車両を国内外向けに開発・製造しています。また、高精度な軽量アルミ車体「A-train」や最新のIT技術を駆使した車両情報制御システムなど、新たな製品・コンセプトも積極的に提案しています。

平成31(2019)年には鉄道事業者である国営台湾鉄路株式会社向け都市間特急車両EMU3000を受注し、全600両(12両×50編成)の車両を製造しました。



写真の車両は令和6(2024)年に最終出荷を終え、現在台湾全土を走行しています。

日立は鉄道事業においても、ITとOT(制御・運用技術)、プロダクトを活用するLumadaソリューションを通じて、社会が抱える課題を解決します。

世界でオンリーワンの素材メーカーを目指して

東洋鋼鋳(株)

昭和9(1934)年、材料や製品の海運に通じた立地と温暖な気候、まちを挙げての誘致により、民間初のぶりきメーカーとして東洋鋼鋳(株)下松事業所は誕生しました。以来、固有の圧延・表面処理・ラミネート技術を駆使して、高付加価値の表面処理鋼板を世の中に送り出してきました。



ハイペット缶

最近では、鉄鋼会社の枠にとどまることなく、非鉄のアルミニウムや樹脂を精密加工した機能材料、シリコン基板に特殊な表面処理を施した医療向け製品なども展開しています。

船舶の製造をグローバルに展開

(株)新笠戸ドック

大正7(1918)年に操業した、笠戸島に拠点を持つ造船会社です。

建造量日本一を誇る「今治造船グループ」の一員として、全長約200メートルのばら積み貨物船(麦・大豆・とうもろこし・石炭などを運ぶ船)を年間7〜8隻建造しています。

また、自動車運搬船やタンカーなどの大型商船の改造・修理も行い、国内外の船主から信頼されるパートナーとして、効率的かつ安全な運航を全力でサポート。手掛けた船が、世界の海で活躍しています。



(株)日立ハイテク

(株)日立ハイテク笠戸地区は、半導体製造装置を開発・製造しており、高品質な製品、高精度なモノづくり技術が要求されます。令和7(2025)年4月に稼働する新製造棟では、生産ラインの自動化、環境に配慮したスマートファクトリーの実現をめざしています。



9000 シリーズ

海外での装置据付作業に従事し、平成10(1998)年から2年間米国に駐在。現在は作業主任として安全・品質管理を行いながら、若手への指導・育成に努めています。



(株)日立ハイテク
製造部 梶山 徹さん

ものづくりのまち

下松の礎を築いた

く はら ふさ の すけ
久原 房之助



明治2(1869)年、萩市生まれ。明治・大正・昭和と活躍した実業家・政治家。

大正6(1917)年、陸海の交通の利便性、広大な土地、豊富な労働力が確保できるなど、多くの好条件から下松の沿岸地域に着目し、造船・製鉄業を中心とした世界的な工業都市の建設を目指した「下松大工業都市建設計画」を発表。

アメリカによる鉄鋼の輸出禁止により計画は中止になりましたが、久原が計画の一環として設立した日本汽船笠戸造船所は、造船から鉄道車両の生産に転換。現在では新幹線などの製造を行う日立製作所へと発展しました。

また、久原は現在の下松工業高等学校の創設に寄付するなど人材育成にも尽力し、「ものづくりのまち」下松の礎を築きました。

まだまだある ものづくりのまちを支える 下松の産業



ENEOS(株)下松事業所



住化アグロ製造(株)

新幹線の「顔」をつくる匠の技“打ち出し板金”

(株)山下工業所

(株)日立製作所の協力会社で新幹線の顔づくり60年の実績を持つ(株)山下工業所は、「打ち出し板金」という手仕事の技を駆使して、初代新幹線の先頭車両から最新のE8系まで20車種以上を製作しています。高い技術力と豊富な経験で半導体製造装置向け部品など、鉄道車両以外の幅広い分野にも対応しています。地域に根ざし、地域産業の発展にも貢献しており、経済産業省の「地域未来牽引企業」や「元気なモノづくり中小企業300社」に選定されるなど技術力と実績が高く評価されています。



E5 系新幹線の先頭構体



打ち出し板金作業

道路を走る鉄道車両！ 見学プロジェクト



令和6(2024)年4月27日、全国でも珍しい屋間の鉄道車両の陸送を見ようと国内外から5万人が訪れました。地元で製造された車両が世界へと旅立つ姿は、子どもたちをはじめ、多くの人に夢と誇り、そして感動を与えました。